

令和5年度第2回西和構想区域地域医療構想調整会議 議事録

日時：令和5年3月22日（金）

10時30分～12時00分

場所：オンライン

出席委員：別紙名簿のとおり

欠席委員：福井委員（奈良県薬剤師会理事）

事務局（塚本奈良県地域医療連携課課長補佐 以下「塚本補佐」）

始めます。

そうしましたら間もなく開始させていただきます。

Y o u T u b e の方で毎度のことですけれども配信をさせていただいております。

開始とともに配信が始まりますのでご了承ください。

では定刻となりましたのでただいまから、令和5年度第2回西和構想区域地域医療構想調整会議を開催いたします。

委員の皆様方には大変お忙しいところ、本日の会議にご出席いただきましてありがとうございます。

司会を担当いたします地域医療連携課の塚本でございます。

どうぞよろしく願いいたします。

（委員の過半数の出席を確認→会議成立）

開催にあたりまして大澤医療政策局次長からご挨拶申し上げます。

事務局（大澤医療政策局次長）

医療政策局次長の大澤でございます。

本来であれば局長の筒井の方からご挨拶申し上げますところでございますが、本日公務重なっておりますして欠席をさせていただいております。

代わりに私の方から一言ご挨拶をさせていただきます。

本日は、皆様お忙しい中、「令和5年度第2回西和構想区域地域医療構想調整会議」にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

皆様には平素より医療行政をはじめ、様々な場面において、広く県政にお力添えを賜っておりますことに、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

本県における地域医療構想は、その実現に向け、具体的対応方針の作成や病院意見交換会へのご参加、「面倒見のいい病院」事業へのご理解など、皆様方のご協力の下、取組を着実に進めてきたところです。

昨年度、機能別の必要病床数に向けた量の検討は概ねクリアし、今後は、質の向上に向けた取組へ注力していくという県の方向性についても合意をいただき、県としては、ひとつステップが上がったという認識をしています。

本日は、国・県の状況について情報提供させていただくとともに、意見交換では、少子高齢化がますます進む2025年以降も見据え、「在宅患者の増悪時の受入」をテーマとして、現場や地域の現状をよくご認識いただいている委員のみなさまから、率直なご意見をいただければと思います。

それでは、よろしく願いいたします。

事務局（塚本補佐）

今年度、新たに委員名簿のとおり委員の委嘱をいたしました。令和5年10月1日から令和7年9月30日までとなっております。どうぞよろしくお願いいたします。続きまして、本日もご出席いただきました委員の皆様をご紹介します。

名簿に沿ってご紹介しますので、お名前を読み上げましたらマイクのミュートを解除して、一言お願いいたします。

（委員紹介）

本日は「地域医療構想アドバイザー」として、厚生労働省から委嘱された先生方にもご参加いただいておりますので、ご紹介いたします。

（アドバイザー紹介）

この「地域医療構想アドバイザー」は、「都道府県の地域医療構想の進め方についての助言」や「地域医療構想に関する各種会議に出席し、議論が活性化するよう助言すること」を役割としており、平成30年8月より制度化されているものです。

また、本日の議事内容、議題2に関して意見を伺う可能性があるため奈良県西和構想区域地域医療構想調整会議規則第7条に基づき、議長から、田北病院に対して関係者のご出席をお願いし、本日は小原事務長にご参加いただいております。

（田北病院挨拶）

それでは議事に入ります前に、本日の資料の確認をお願いします。

本日の資料は次第に記載のとおりとなり、事前にメールでお送りした資料となります。お手元に届いていない資料がありましたらチャット欄でお知らせください。

なお、本会議は県の審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、公開としており、報道機関の取材及び傍聴をお受けする形で開催しています。報道機関の方及び傍聴される方には、本会議の内容をユーチューブにてライブ配信しておりますのでご了承ください。

Y o u T u b eにて傍聴される方は、録音録画はご遠慮ください。

それでは、議事に入ります。奈良県西和構想区域地域医療構想調整会議規則第4条の規定に基づき、議長はあらかじめ知事が郡山保健所の水野所長を指名しています。

ここからの進行は水野議長にお願いいたします。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

よろしく申し上げます。それでは、議事に入らせていただきます。

まず事務局より、議事1についてのご説明をお願いいたします。

事務局（馬場奈良県地域医療連携課長 以下「馬場課長」）

（資料1-1に基づき説明）

事務局（濱岡奈良県地域医療連携課係長 以下「濱岡係長」）

（上永奈良県地域医療連携課主査 以下「上永主査」）

（資料1-2に基づき説明）

水野議長（奈良県郡山保健所長）

どうもありがとうございました。

ただ今、事務局から説明のあった内容について、ご質問・ご意見はございませんか。

意見等なし

それでは「議事1 奈良県の取組及び国の動向について」に関する議論はこれまでとします。

続きまして、「議事2 紹介受診重点医療機関について」を事務局より説明をお願いします。

事務局（馬場課長）

（資料2に基づき説明）

水野議長（奈良県郡山保健所長）

どうもありがとうございました。

ただ今、事務局から説明のあった内容について、ご質問・ご意見はございませんか。

田北病院様からただ今の説明の補足等ございますでしょうか。

小原事務長（田北病院）

奈良県の方からご紹介いただいた内容で、当院も取り組んでいるのですが、紹介重点医療機関の経営的なメリット、医療の数字のところでは、当院の許可病床数の関係上、メリットはないのですが、これからの大和郡山市の人口動態の変化であったり、医療DXの推進であったり、そういったところを加味していくのであれば、より地域の連携や当院の役割というところに重点を置いて、その業務を行っていかないといけないというところもあり、基準値を少し下回っていますが、開業医の先生方との更なる連携を図っていく上で、1つ目標がなければ、取り組みや、その成果に対するやりがいも出ませんので、病院としては、引き続き紹介受診重点医療機関の立場をいただきながら、その目標を、貫通していけるように、頑張っていきたいと思っておりますので、またよろしく願いいたします。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

ただ今の田北病院からのご説明に対し、ご質問・ご意見はございませんか。

意見等なし

今回協議の対象となりました田北病院について、特段の意向に対して特段の異論はありませんでしたので、意向どおり手続きを進めただけだと思います。

それでは「議事2 紹介受診重点医療機関について」に関する議論はこれまでとします。

続きまして、「議事3 公立病院経営強化プランについて」を事務局より説明をお願いします。

事務局（馬場課長）

（資料3に基づき説明）

水野議長（奈良県郡山保健所長）

ただ今、事務局から説明のあった内容について、ご質問・ご意見はございませんか。

土肥委員（奈良県西和医療センター院長）

ご紹介いただきました経営強化プランに関しては、先日の病院意見交換会では、奈良県立病院機構全体の発表のみで西和センターに関しての言及はなかったのですが、基本的には今、移転再整備の計画が進行中ございまして、どのような病院を作っていくかという議論

をしている中で、先ほど資料で出していただきましたけど「断らない病院」を目指して、救急搬送についてでございますが、令和3年度は2,200台、西和医療センターは応需しており、それが令和4年度は3,100台と1,000台増えて、令和5年度はさらに1,000台増えて、4,000台を超しているという状況で、地域の状況は非常に変わってきており、全体の救急搬送も増えているのですが、なかなか働き方改革を推進する上で、夜間休日の救急搬送という意味で、以前は、かなりシェアできていたものが、だんだんシェアできなくなっているという状況の中で、民間病院の先生方が、長所を伸ばしながら、民間病院が出来ないことをしていくのが公的病院の役割だというふうに認識しておりますので、特に、救急搬送に関しては積極的に受け入れ、受け入れ数や応需率を伸ばしていきたいということで取り組んでいるところでございます。

よって、西和医療圏の中での拠点病院として、病院の役割を認識し、運営していく上で、この会議で、2年ぐらい前に移転の基本計画基本構想の中で、ベッド数を現在の300から、公立病院は減らすべきだという、新型コロナウイルス感染症前のデータに基づいて申し上げましたけれども、今、新型コロナウイルス感染症の経験を受けて、今後、災害拠点病院や、新興感染症を対応していく中で、特に新興感染症に関しては、どのような体制でいくのかということで、ベッド数も若干、新興感染症の部分を余分に見ないといけないのではないかと議論を再度検討しているというところでございます。

まだ結論は出ておりませんが、これからも県と病院機構と調整していくつもりです。

また、地元の住民の方々のご意見も十分丁寧に聞きながら、病院の計画を作っていきたくて考えております。以上、補足でした。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

ただいま補足をいただきましたが、特にそれ以外のご意見等ないようですので、今回協議の対象となりました2病院については、病院のプランに関して、原案どおりに策定手続きを進めていただければと思います。

それでは「議事3 公立病院経営強化プランの策定状況について」に関する議論はこれまでとします。

続きまして、「議事4 今後増加が見込まれる領域に関する意見交換」を事務局より説明をお願いします。

事務局（塚本補佐）

（資料4に基づき説明）

水野議長（奈良県郡山保健所長）

それでは意見交換に入りたいと思います。意見交換いただきたい内容については21ページに記載のとおりとなり、この項目に沿ってご意見ををお願いします。

まず、病院意見交換会での意見を踏まえ、地域の医療・介護関係者からみた病院に期待する役割等について、ご意見を伺いたと思います。

地域の医療機関として、生駒地区医師会の有山委員はいかがでしょうか。

有山委員（生駒地区医師会長）

在宅医療等をしておりますと、急変時の対応というところで、速やかに病院に受け入れていただくということが期待されるところでございます。

先ほどの資料 19 ページにもありましたように、赤字で書いてある部分というところは、最もであるというところで、そういったところを中心に体制整備していただけたら嬉しいなと思っております。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

奈良県医師会の堀井委員はいかがでしょうか。

堀井委員（奈良県医師会理事）

有山先生が仰ったのと同じように、在宅で診ている患者さんが急変したときに、地域の病院がいかに入力してくれるかということですが、専門が違うからという理由で断られるケースがあるかもしれない中で、そのあたりの、まずどこに送ればうまく調整していただけるかというような調整機関みたいなものがあったらよいのではと思っております。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

地区の訪問看護ステーションのお立場として、郡山訪問看護ステーションゆう所長の井村委員はいかがでしょうか。

井村委員（郡山訪問看護ステーションゆう所長）

訪問看護の立場からしても、どこが受け入れてくれるのかということや、病院と情報の共有をどのようにおこなっていくか、やはり、その時々にはサマリーを書いたり、紹介状を書いたりといった手間がかかるため、その辺りが、もうちょっと簡素化されて共有出来るものになっていければよいと考えているところではあります。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

地域の高齢者福祉を推進するお立場として、奈良県老人福祉施設協議会の辻村委員はいかがでしょうか。

辻村委員（奈良県老人福祉施設協議会顧問）

私たち、介護の分野から申し上げますと、下り搬送というのが医療機関の中では、急性期

から回復期というようなことでもあると思われませんが、最終的には、在宅の復帰であり、また、介護施設が受け皿になるということですので、その辺りのところまで視野に入れた制度を確立することが必要だと思います。

また、データが十分に伝わってないという記載もございましたけれど、西和医療圏では、このことについては、随分前から、近大病院が中心となってやっていたものもありますし、そこはDXをもっと進めていくということに力を入れていただきたいなというふうに思います。

それから、将来的な話でもありますけど、一番最初の話において、病院機能を再編成するというような話も、かなり突っ込んだ方向性が示されていましたが、そういうことについて、どういうステップを踏んでいこうということなのか、私たち介護分野でも、或いは福祉分野でも、連携推進法人というのを、厚労省は随分力を入れているのですが、必ずしもうまく進んでいません。

医療連携推進法人の方が全国的には早くスタートしていますけれども、常々私たち思っていますけれども、医療の病院等に介護機能をくっつけるということも重要な視点かも知れませんが、介護関係者からすれば、介護施設に医療機能をもっと充実させるというような視点も必要だと思いますし、もう少し、相互の調整といいますか、意見交換をもっと進めていく必要があるのではないかと考えています。

加えて言いますと、最初の議論のところ、認知症へのケアということが、資料の13ページに出ていますけれども、この点については、介護施設や、在宅のケアでは非常に重要な視点で、病院に期待したいというような意味で言いますと、身体拘束ということが、なお、医療機関においては散見されていると。

私も要介護認定審査会の委員をしておりますが、どこの病院と医療機関は明示されていませんので、特定はできませんが、しばしば、拘束されているという事例を未だに目にします。

介護施設では、最近はまだほとんど考えられないような事例が今なお残っているというのは、いささか懸念するところでございます。

そんなところも1つ、進めていただきたいなと思っております。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

地域の住民のお立場として、王寺町長の平井委員は、いかがでしょうか

平井委員（王寺町長）

地域として特に要望という点でお話させていただきたいのは、西和医療センター、今、移転改築云々、それから、加えてですね、地域7町でもって、年末に、県の方に要望書を提出させていただきました。

内容が大きく3点でございまして、特に西和地域が、分娩の空白地帯に近くなっていると

いう状況がございます。7町の中で、1クリニック1バースセンターの2つしかない。本当に地域の方が分娩数があり、出産もされているものの、地域内での分娩の数が少ないという、この実態、ただし、働き方改革等の中で人材の確保が難しい、かつ、だんだん民間がなくなってきている、これを公的な病院が、その機能を担っていただきたいというのが地域の強い要望であります。

それは西和医療センターにハイリスク対応の奈良県総合医療センターと同じような機能をもう1つとは言っていないのですが、分娩プラス、合併症であるとか、当然必要な医療が周産期として必要でございますので、西和医療センターに周産期の復活をしていただきたいと、これが地域の大きな要望の1つであります。

2つ目がこの地域、県全体の中で、出生率の比較的高いところでもありますので、今も全国的に、人口減少対策を言われてる中で、最低限の子供・子育て、医療も含めた、子育て環境をどうするかの中で、小児の2次救急も西和医療センターで強化していただきたいということ、また、もう1つ要望しておりますのが、先ほどの案件にも関わってくるのですが、地域包括ケアシステムの充実ということをお場でも何回か言わせていただきました。

特に先ほどの意見の中でも、DXの推進ということが言われています。今、我々お聞きさせていただいているところでは、国の方でも、令和8年度、医療情報のプラットフォームを作るという動きがありますので、ぜひ、このシステムを県全体で積極的に取り組んでいただいて、情報の共有システム化を、色んな介護・医療問わず、共有出来るような仕組みを構築していただけるようにというのは特に県のDXにも関わる内容だと思いますので、是非お願いしたいなど。

地域として実は年末に7町長で、或いは議会も含めて3つの要望をさせていただきました。

これをぜひ皆さん方にもお聞きいただきたいなということでお話をさせていただきました。

事務局（馬場課長）

町長も今仰っていただいたように、地域の住民の方々の意見をすくい上げる場、地域医療についてすくい上げる場がこの地域医療構想調整会議でございます。

当然ながら、今後、西和医療センターの整備の内容も、この場で色んなご協議等がされていくものと考えています。

引き続き、この場や、他の場もあると思いますけれど、色んなご意見を頂戴した上で皆様の完全な納得というわけにはいかないのかもしれませんが、できるだけ皆さんがご同意いただけるような内容で、取り進んでいけば良いと思っています。

今、仰っていただいた周産期の話や、小児の2次救急の話は、いわゆる2次医療圏だけでとどまらない部分、また2次医療圏内全体を見ながら考えていかなければならない部分というのはあると思っています。

引き続き地域医療調整会議、また、地域医療連携課としても、しっかりと意見を傾聴させていただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

では、続きまして、病院と地域の医療介護関係者の役割分担や連携で解決できることは何かについて、ご意見などを伺いたいと思います。

まず、病院の医院の方々からご意見を伺います。

松山委員、今までの説明を受けまして、ご意見などございますでしょうか。

松山委員（奈良県総合医療センター院長）

当センターでは断らない地域の実現ということで、今どんどん救急を受けているのですが、患者さんが増えており、今は、年間7,500件を超える勢いでございます。

やはり、夜間、祝日、土日の患者さん、介護施設から、または在宅医療の患者さんがどんどん増えてきておりまして、高齢者の誤嚥性肺炎、あとは、尿路感染症が割合が多く、本来、我々は日常での重度の高い手術などをしたいのですが、なかなか難しい部分がございます。

ERとしては、95%を目指しているのですが、稼働率も既に100%を超えることが増えております。

日中に病床確保しても、次の日の朝には満床ということでございますので、先ほどの17ページ、18ページ示してもらいました地域包括医療っていうので、しっかり対応出来たら嬉しいと思いますが、無理な場合は、一旦、対応させていただきますけど、この18ページのように転院システムが機能すれば嬉しいと思います。

当センターも、救急ネットワークという形をとってやっているのですが、より太いパイプが実現出来ると、当センターの高度急性期も充実出来ると思っております。

ご協力よろしくお願いいたします。

また、今のこの動きが働き方改革ということで、宿日直が関与してくると、やはり、土日祝日、夜間の体制がどのように変化していくかというのを、4月から注視していかないといけないと思っております。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

ありがとうございました。

土肥委員はいかがでしょう。

土肥委員（奈良県西和医療センター）

今日の議論は今後増加が見込まれる在宅医等が介入している高齢患者の増悪時の受け入れ対応について、という中での役割分担、連携ということでお話しさせていただきますと、そういう患者さんというのは全てを高度急性期の奈良医大、奈良県総合医療センターに送

るということは、これからの時代は難しいということで今回の診療報酬改定で、地域包括医療病棟ということが出てきたというふうに認識しています。

地域包括医療病棟を担っていただけるような民間の病院の先生方、出てくればいいなどというふうに思っていて、そこと連携していきたいと考えています。

西和 7 町でも民間の病院がありますので、そのあたりのご意見をこれから聞いていきたいと思えますけれども、今日入っていただいている先生方で、郡山青藍の野中先生や役員の先生が入ってらっしゃると思うのですが、地域包括医療病棟の運用という点について、ぜひ民間病院の先生方からもご意見を頂戴したいと思っています。

もし、そのようなことが出来たら、例えば、日中なんかは、高齢者の急変時に受け入れていただける体制を整えていただいて、夜間や祝日は医師のマンパワーの問題がありますので、そこは何十人、何百人という医師を揃えている病院が一旦受け取って、1 日入院していただいた上で、次の平日に下り搬送させていただくというようなことが、実現できれば高齢患者の増悪時の体制っていうのは、だんだん整っていくのではないかなと期待しているところですが、そのためには地域包括医療病棟を作っていただくということが大切なのかなというふうに考えています。

もう 1 つ連携についてですけども、そういう連携において、先ほど来、話が出ていました DX に関しては、近大奈良病院で始められて、今は生駒地区医師会の会長の有山先生が熱心に取り組んでいらっしゃる「やまと西和ネット」というのが西和地域ではあるのですが、なかなか広がっていかない。その理由をよく検討して、どういう DX での情報共有がいいのか、いろんな会社や企業があつて、違うものをみんなが使っていることも、1 つネックになっているように思えますので、みんなで統一したものを使っていくということが重要ではないかと。そのために、開業の先生方にご負担がないようにするにはどうすればいいのかという知恵を絞っていかないといけないのと思っています。

高齢者の患者さんが入って、下り搬送する連携の中でも、地域医療連携推進法人という仕組みを将来うまく活用して、比較的大規模な病院から中小の病院に、スムーズに患者さんだけでなく、医師も移動できるという体制を将来作ることによって連携をどんどん強化できるのではないかと考えていますけれども、これもいろんな病院との協議のもとでないできませんが、着実に進めていきたいと考えているところです。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

ただいま、地域の病院のお話が出ましたので、野中委員いかがでしょうか。

野中委員（郡山青藍病院理事長）

我々の病院は 140 の急性期を中心にした病院ですけども、急性期から入られた人達を地域包括病棟へ収容するという方向に向いています。

例えば先ほどおっしゃられた公立病院から地域包括病棟へ送っていただくというケース

が非常に少ないケースでありまして、年間にしてもそんなに多くなく、10 から 20 以下となっています。

そこで、地域包括病棟でやっていくのに何が大切かというところ、在宅復帰率の問題がありまして、そのあたりがなかなか我々は、アップしてないというところがあって、なかなか難しい問題があります。よって、先ほど西和医療センターの土肥委員が言われたように送っていただくケースが増えていくようであれば、十分、経営に対して良くなりますし、そして在宅復帰率も上がってくるだろうということで、また、ご協力よろしくお願ひしたいと思っております。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

先ほど、お話出ていましたけれど、近大奈良病院の村木委員いかがでしょうか。

村木委員（近畿大学奈良病院院長）

当院としましては、先ほど言っていたDXとして、やまと西和ネットがありますので、そこに色んな在宅を抱えておられる先生方が入っていけば、いろんな意味で、患者さんの情報提供がそのまますぐに理解いただけるので、さらに広めていただければいいと考えております。

我々の懸念点としては、専門の分化が進んでいるということで、全科当直ではないので、時には夜間帯で専門外という理由で断っているケースがございます。

こういったところを病院全体として強化していくという取り組みが必要なのかなと思っています。

今いろんな意味で、稼働率じゃないですが、満床が続いていたりもしております、ご迷惑をかけるときもありますけれども、前進していきたいと思っています。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

看護の立場から春木委員いかがでしょうか。

春木委員（奈良県看護協会常任理事）

私も看護協会に来て間がないのですが看護協会ではですね、橿原に2つ、宇陀に1つ、曽爾に1つ所を持ってまして、訪問看護ステーションの経営等、色んなことに関わるようになりました。

訪問看護のナース達は非常にスキルが高く、中堅層でもありますし、医療ケアがすごくたくさん持つてる患者さん、利用者さんでもですね、訪問に行っている現状があります。

今度新設されます地域包括医療病棟ですね、その病棟との関連性は、非常に私としては興味があります。課題といたしましてはやはり急変で、そのような医療をたくさん持つてる利用者さんを取ることによって経営も、かなり良くなるわけですけど、そういった患者さん、

利用者さんの急変対応に対して、病院に入院するところのシステムがスムーズにいくというようなことで、もし、この新設された病棟がうまく連携取れば非常にありがたいと思います。

もう1点は在宅医の先生がいらっしゃることで、共同してやってるわけですが、在宅の先生は、夜中にも電話で対応されたり、お休みがないというような状況があって、非常に健康被害を心配します。

熱意を持ってやっていただいても、長く健康を害さないでやっていただくためにも、この病棟との連携がうまくなって、すぐに入院できて、だけでも、その21日の平均在院日数とかにならないまでも早く退院して、また元のステーションに帰ってくる、また、訪問ケアを受けられるというような、そういった連携を強化していただくために、その病棟と訪問看護ステーション、その在宅の先生と、この利用者さんたちの情報を共有していただくというようなシステムを作っていただければ、いろんな面で連携が取れていいのではないかなというふうに思うので、私としては医療病棟、非常に興味を持っておりますので、今後見ていきたいと思います。

先ほど土肥院長もおっしゃっていたように、地域でケアネットを持っていますけども、宇陀では宇陀ケアネットっていうのをされています。

そういったところで、どういうふうに問題があって、うまくいっているところというのは検証して行って、色々ところで広げていったらいいかなと思いますので、他の地域でもやられているネットの状況を取り入れたりしてやっていただくということを西和でもやっていただければいいのかなと思います。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

歯科医師の立場から、佐々木委員、ご意見ございますでしょうか。

佐々木委員（生駒郡山地区歯科医師会会長）

歯科医師会では、近年、医科歯科連携ということで特に周術期がんの手術期と、糖尿病において、相互の意思疎通を図って、患者さんの健康・病気の改善について図っていききたいというふうに、取り組んでおります。

特にその糖尿病は、歯周病と互いに良い方にも悪い方にも影響し合っている状況がありますので、特に糖尿病を診ていただいている内科の先生には、血糖値の高い糖尿の患者さんには、一言、歯科へ行って診てもらって欲しいと言っていただくのが、糖尿病の改善に繋がるとは思っておりますので、よろしく申し上げます。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

保険者のお立場から藪内委員ご意見ございますでしょうか。

藪内委員（全国健康保険協会奈良支部支部長）

先ほどからお話ずっと出ていますが、DXをさらに推進をして、情報共有が円滑に回っていくような形の体制づくりを、出来るだけ早く構築していただけたらと思いますし、それと、在宅医さんと、受け入れの病院のところの、定期的な情報交換をしながら、急な増悪患者への対応ということで、スムーズに受け入れられるような、それも情報共有になりますけどしっかりとお願いしたいと思います。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

他にご意見ございますでしょうか

有山委員（生駒地区医師会会長）

情報医療情報の共有というところで、話題になっておりますが、西和医療圏におきましては、西和医療圏地域医療介護連携推進協議会という一般社団法人で、やまと西和ネットという医療DXの情報共有システムを運用しております。

まだまだちょっと知名度が低くて広がっていない状況ですけども、いろんな情報、医療機関間もしくは医療と介護の間でいろんな情報共有ができるシステムでございます。

これは、在宅で過ごしている高齢者の増悪時のときの情報共有にも役立ちますし、また、災害、震災があったとき等の情報共有にも役立ちますし、日頃の医療介護の連携にも非常に役立つシステムでございます。

それを県下に広げていくとなりますと、やまと西和ネットと宇陀ケアネットは同じシステムを使っております。その2つを合わせていきますと、おそらくキャパシティとしては奈良県全下を充足できるようなキャパシティを持っていると思いますので、宇陀ケアネット、やまと西和ネットを中心に、県下で広げていくこともお考えいただければと思います。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

その他、各病院の具体的対応方針についてご意見などございますでしょうか。

土肥委員（奈良県西和医療センター）

各病院の具体的対応方針で先ほど王寺町の平井町長がおっしゃられた、周産期や小児のことに関しては、当院が周産期を止めなければならなかった大きな理由は産科医の確保ができなかったことにつきます。

そういった経緯で現在、分娩を県総合医療センターにお願いしているという形ですけども、実際やっぱり距離的な問題で、西和から県総合医療センターに紹介してる数は、30ぐらいしかなく、実際、住民の方は、なかなか違う医療圏にまでは行きたがらないということはおもう十分わかっていますし、町長がおっしゃったように西和7町だけでも、分娩数と出生届の数が600,700の差がある、その出生届が圧倒的に多いということに関しても、何らかの

解決策は必要だと、私も思っているところでありますが、こればかりは産科医の数の問題、供給元の問題がございますので、奈良医大の産婦人科教室とかの全面的なバックアップがなければ、成し遂げることはできないと思っていますので、今後も議論はしていきたいと考えています。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

高齢者の急変時の対応のところ、急変時に対応していただける病院、それから高度急性期のような病院で一旦、入院されても、また次の日には、地域の病院に戻ってもらうような体制を作って欲しいというようなこと。

それから、その病院間で、それから、在宅や介護施設などとのやりとりの間で情報共有をうまくやれないかっていうような話が出ました。すでに宇陀ケアネットとそれからやまと西和ネットの2つがあるってということで、有山委員から同じシステムを使っているということでしたので、今後、そのあたりを検証しながら、県内にいろいろ広げていけるような方向ってのも皆さんで考えていけたらと思っております。

今後本年4月からの医師の働き方改革の試行など、医療だけでなく介護・福祉を取り巻く環境が変わっていくと思われまます。

より一層地域での役割分担と連携が重要となってきますのでしっかりと話し合いをしていただきたいと思ひます。

最後に、地域医療構想アドバイザーの野田先生よりコメントをお願いいたします。

野田地域医療構想アドバイザー

議論を拝見しております、今日の内容では2つございまして、1つは病院間、もしくは介護との連携ということで、国の方でも、当教室の今村教授が主任の今村研究班でも、電子カルテからうまくサマリーを掃き出せないだろうかということで、あまり様式にとらわれずに、そのような仕組みを電子カルテに入れることができないだろうかということで、国の方も、まだ表には出てないのですが進めておまして、そういうふうな点が重要な点であるということは情報連携について認識が進んでるところかと思ひますし、また、病院の転院元、転院先、その2つでお互い乗り入れるといいですか、退院する前に、患者さんの所に転院先の施設の方が訪問して、状況をすり合わせるといったことも大分全国的にも広がってきつつあるという状況でございますので、そのような様々な取り組みの中で連携が進んでいくのだろうと考えております。

また、病床数、話は別ですけども地域全体の病床数につきましても、新型コロナウイルス感染症の前と後とでは、大分状況が変わってきていると認識をしておりますので、そのような議論が、大切かなと考えているところでございます。

意見としては以上でございます。

水野議長（奈良県郡山保健所長）

ありがとうございました。

それでは、予定していた内容を終了しましたので、事務局にお返しします。

事務局（塚本補佐）

それでは、予定していた内容を終了しましたので、事務局にお返しします。

以上をもちまして、令和5年度第2回西和構想区域地域医療構想調整会議を終了いたします。

委員名簿（西和構想区域 地域医療構想調整会議）

（五十音順・敬称略）

氏名	フリガナ	所属・職	備考
有山 武志	アリヤマ タケシ	生駒地区医師会会長	
井村 夕香	イムラ ユカ	郡山訪問看護ステーションゆう所長	
佐々木 昇	ササキ ノボル	生駒郡山地区歯科医師会会長	
辻村 泰範	ツジムラ タイハン	奈良県老人福祉施設協議会顧問	
土肥 直文	ドイ ナオフミ	奈良県西和医療センター院長	
野中 家久	ノナカ イエヒサ	郡山青藍病院理事長	
春木 邦恵	ハルキ クニエ	奈良県看護協会常任理事	
平井 康之	ヒライ ヤスユキ	王寺町長	
福井 康至	フクイ コウジ	奈良県薬剤師会理事	欠席
堀井 康弘	ホリイ ヤスヒロ	奈良県医師会理事	
松山 武	マツヤマ タケシ	奈良県総合医療センター院長	
水野 文子	ミズノ フミコ	奈良県郡山保健所長	
村木 正人	ムラキ マサト	近畿大学奈良病院院長	
藪内 章良	ヤブウチ アキラ	全国健康保険協会奈良支部支部長	
山田 全啓	ヤマダ マサヒロ	奈良県中和保健所長	

地域医療構想アドバイザー

氏名	フリガナ	所属・職	備考
今川 敦史	イマガワ アツシ	済生会中和病院 名誉院長	欠席
今村 知明	イマムラ トモアキ	奈良県立医科大学 公衆衛生学講座 教授	欠席
野田 龍也	ノダ タツヤ	奈良県立医科大学 公衆衛生学講座 准教授	